

令和5年2月吉日

保護者の皆様

白山市立北星中学校
校長 木下 貴博

学校評価の結果について

早春の候、保護者の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に格別のご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

保護者の方々におかれましては、学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。学校評価は、生徒達がよりよい教育を受けることができるよう、教育活動の成果を検証して学校運営の改善を目指すものです。アンケート結果を分析し改善策を検討し、その結果を報告します。

今後も生徒一人一人が、充実した学校生活を送れるよう教職員一同努めて参りますので、ご理解とご支援のほどよろしくお願いいたします。

なお、アンケート結果はホームページ（「学校案内」→「学校評価」）をご覧ください。

1. 確かな学力の育成

1:よくあてはまる 2:あてはまる 1+2は、その合計 数値は「%」

対象	評価項目	R4年前期		R4年後期	
		1+2	1	1+2	1
生徒	授業のルールを意識し、意欲的に授業に参加している。	96	43	96	41
保護者	お子さんは、意欲的に授業に参加していると思う。	83	19	85	21
生徒	授業がわかりやすいと思う。	92	31	95	33
保護者	お子さんは、授業がわかりやすいと思っている。	70	9	73	10
生徒	授業では、自分で考えたことやわかったことを表現することができる。（書く、発表する、動く、描く、歌う、作る等）	80	26	82	27
生徒	家庭学習の習慣が身についてきている。	79	25	79	28
保護者	お子さんは、家庭学習の習慣が身についてきている。	56	12	61	14

<今後に向けて> ○：よかった点 ▲：課題

- 授業のルールを意識し、意欲的に参加している項目で肯定的な評価（あてはまるとややあてはまる）をした生徒は96%程度である。さらに向上させていくために意欲を喚起する授業を心掛ける。
「授業がわかりやすい」という項目に5~8%程度の生徒が否定的に答えている（昨年度よりは否定的に答える生徒が少ない）。わかりやすい授業を心掛けつつ、一層の個別対応や理解度に応じた学習課題を考えていく必要がある。
- ▲ 「自分で考えたことやわかったことを表現する」の項目では、自己表現を苦手としているようである。表現方法を工夫させたり、できたことを認めたりしながら、表現の機会を増やし、少しずつ経験を積みせる必要がある。
- ▲ 家庭学習の定着について、自学ノートやワーク、各教科のコンテストの取組を計画的に行い、一定の成果が見られるが、習慣が身についていないと答える生徒が20%程度いる。
具体的な家庭学習の仕方や時間の使い方等のアドバイスで習慣化できるように促していく。

2. 豊かな心とたくましい体の育成、安全・安心な学校

1:よくあてはまる 2:あてはまる 1+2は、その合計 数値は「%」

対象	評価項目	R4年前期		R4年後期	
		1+2	1	1+2	1
生徒	学校に行くのは楽しいと思う	94	48	94	51
生徒	さわやかな挨拶ができています。	88	29	88	30
保護者	お子さんは、道徳の授業などを通して、道徳的な規範意識を身につけている。	88	17	91	17
生徒	読書が好きである。	73	40	72	35
生徒	中学生らしい身だしなみを心がけ、ルールやマナーを守っている。	99	57	98	59
保護者	北星中生徒は、服装や生活ぶりに健全な姿が見られ、さわやかさが感じられる。	96	26	97	30
生徒	いじめられたり、無視されたりすることなく安心して活動できている。	98	77	97	72
生徒	自分の周りにいじめやからかいがあったときには、どのように(誰に)知らせればよいか知っている。	96	58	97	64
生徒	日頃から安全に登下校ができるよう努めている。	99	65	99	66
生徒	部活動に目標をもち、積極的に取り組んでいる。	94	64	94	63
保護者	お子さんは、部活動に目標をもち、積極的に取り組んでいる。	85	39	85	38

<今後に向けて> ○:よかった点 ▲:課題

- ▲ 「学校に行くのは楽しい」の項目で、肯定的評価の割合が微増している。学校行事が概ね予定通り実施され、成功を収めたことがよい結果となっていると思われる。一方で6%程度否定的な回答をしており、懇談等通じて悩みや不安解消に努めていく必要がある。
- 「さわやかな挨拶」の項目では、肯定的評価の割合が微増している。今後も教職員の率先垂範、生徒の自主的な活動を促し、さわやかな挨拶が自然にできる生徒をさらに増やしていく。
- ▲ 生徒は概ね安心して学校生活を送っているようである。しかし、否定的な回答をした生徒もいるため、情報交換を密に行い、手立てを考え迅速な対応で一人一人に寄り添っていく必要がある。

3. 家庭・地域との連携

1:よくあてはまる 2:あてはまる 1+2は、その合計 数値は「%」

対象	評価項目	R4年前期		R4年後期	
		1+2	1	1+2	1
保護者	学校からの各種たより、ホームページ、PTAの会合などから学校の様子がよく分かる。	89	10	94	22
生徒	家で学校での出来事を話している。	86	46	86	44

<今後に向けて> ○:よかった点 ▲:課題

- 「学校の様子がわかる」の項目では、後期肯定的回答が伸びている。これは後期、学校への欠席連絡と学校からの連絡配信にアプリを導入し、便り等を直接保護者に送信できたことで学校の様子が分かると考えられる。

4. 学校関係者評価(学校評議員とPTA役員)

- 授業や行事に積極的に取り組んでいて、楽しいと感じる生徒が多いのは良いと思う。3年生に責任感が感じられる。学校全体として、さわやかな挨拶が増えれば雰囲気は良くなり、行事への関心も全体的に増えるのでは。
- ▲ 学校からの各種たよりがスマートフォン等に直接配信されるようになり見やすくなった。今後は、たよりの内容などを参考に、学校での出来事を親子で話す機会が増えていくとよい。